

目標 1

貧困をなくそう

NO POVERTY

1 貧困をなくそう



●この目標(Goal)の解説

目標1「貧困をなくそう」は、あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困を終わらせるという目標です。2000～15年のMDGs、2016～30年のSDGsともに一番目の目標は貧困問題となっており、21世紀前半の国際社会は貧困が最も重要な課題であり、早急かつ根本的な解決を目指す決意が示されています。



日本国内での課題は、相対的貧困です。2015年では相対的貧困ラインは122万円で、それ未満の貧困層は全世帯の15.6%(779.5万世帯)、子供は13.9%です。特に深刻なのは、母子家庭などのひとり親世帯や、年金だけが頼りの高齢者世帯です。また、ターゲット1.2「各国定義によるあらゆる次元の貧困」の、日本政府の定義を定めていないことや、政府のSDGs推進本部が作成・発表したSDGs実施指針が定める優先8分野には貧困が含まれていないことなど、日本の貧困に対する関心の低さも問題となっています。

また、ターゲット1.1では、極度の貧困状態(1日1.25ドル未満で生活している人)を2030年までに終わらせることを掲げています。2015年では7.36億人(総人口の10.0%)でしたが、国連はこれまでの傾向が続くと2030年には6%にとどまってしまうと予想しています。まずは世界の現状を知ることがとても重要です。

日本でも多くの団体が医療、教育などの極度の貧困から救うための活動をしています。また、それらの支援活動は多くの人の寄付やサポートにより成り立っています。支援団体に寄付や募金をするなど、私たち一人ひとりの行動が、苦しんでいる多くの人々を救う力になります。

●大学生協での実践事例



三重短期大学生協 UNICEF街頭募金



UNICEF協会の方と協力して、津駅前前で募金活動を実施し、合計で8,304円を集めることができました。また、寄付してくれた人にパンフレット(花の種つき)を配布しました。

大学外で活動を行うことで、幅広い年齢層の方から募金をいただくことができました。



島根大学生協 ユニセフ募金



学生委員会メンバーが募金箱を持ってユニセフ募金を呼びかけました。

ショップの前など学内2か所に設置した募金のブースにはユニセフの取り組みの説明(募金をするとどうなるか)を掲示して解説しました。関連するクイズとアンケートも併せて実施し、答えてくれた参加者には食堂で使える小鉢引換券をプレゼント。また、実施期間中は学生委員会のTwitter上でユニセフ(国際児童基金)のホームページの紹介等も行いました。

●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること/自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう!